

6、研究の仮説について

今回の研究を進めていく上で、研究仮説の役割を明確化しておきます。

- ①研究の対象、分野等を限定する
- ②研究の内容や方法の特徴を明確にする
- ③検証の観点、場面や方法を明確にする
- ④目指す生徒像が示される

作成のポイント

- ・これまでの指導の様子及びその時の生徒の反応を十分に分析し、技術を評価し活用する能力と態度を育成する指導方法を見直す
- ・これまでの研究の成果を踏まえ、論理的にずれないようにする
- ・端的で分かりやすい用語を使用する（中身がはっきりしない用語があると、研究の方向性、内容、検証方法等がぼやけてしまう）
- ・研究の評価をどうするのか考えて設定する

上記の役割を念頭に置きながら、前述した研究テーマを分析し、以下のような研究仮説（研究の見通し）を導き出しました。【今後の研究の推進によりさらなる修正が必要とされるところである。】

【研究仮説】

社会参画を意識した体験的な活動を通して、自ら進んで学んだことを活用できれば、生涯にわたって視野を広く持ち、柔軟に課題を解決することができる能力や実践的な態度が養われるであろう

この研究における指導の手だての改善点は、

- ①生徒が自らの生活を改善する手だてを考えるための学習活動を取り入れた授業を展開すること。
- ②上記の学習活動が、生徒自身の自己管理により、常に主体的・能動的に展開するようにすること。

の2点です。

① 具体化するために必要なこと

- ・限られた授業時間を、有効に活用していくために、技術分野と家庭分野の教員が両輪となって、個に応じた学習指導を展開していくこと。
- ・技術分野と家庭分野の両分野を見通した3学年間の指導計画を作成すること。
- ・生徒が自らの生活の改善点を把握できるような自己評価の方法を開発すること。

②を具体化するために必要なこと

- ・限られた授業時間を、有効に活用していくために、技術分野と家庭分野の教員が両輪となって、個に応じた学習指導を展開していくこと。
- ・技術分野の教員と家庭分野の教員の連絡を密にするために、生徒一人一人のカルテを作成して、生徒の成長の状況を把握する方法を開発すること。
- ・生徒が自らの「生き抜く力」を把握できる方法を開発すること。